有蚊1疋であり *C. tritaeniorhynchus* は7月下旬に未熟
仔虫保有蚊1疋を認めたのみで他の種類には認められ
ない。以上の通り長野地方における緬山羊腰麻痺症の
中間宿主は *A. hyrcanus sinensis* であることが判明し
た。
〔長野県農業講習所〕

数種の蚊の卵について

玉鉾 頁三

Tamaboko, R.: Notes on the eggs of
several mosquitoes

従来余り知られていない5種の蚊の産卵状況及び卵に
つき報告したい。

A. 産卵状況 *A. hatorii* は普通の *Aedes* に比し産卵
させる事がかなり困難で僅か1個体丈3回の吸血後5日
目に湿った濾紙上に123個の卵を得る事ができた。*A.*
imprimens 及び *Aedes* sp. (石川県産蚊族中の *A.* sp.
III.) は野外で各数匹の飛来成虫に充分吸血させた後飼
育したが之等両種も1個体宛前者は4個、後者は19個
を産卵した丈であつた。*C. bitaenior.* の卵塊は一般に
C. pipiens 等より細長く1.5~2cmの長さを有し卵数
の最も多いものは463個であつた。卵数の平均値に於て
1951年8月11日に採集したものは165個、同じ場所で

	長さmm	幅 mm	測定卵数	色
<i>A. hatorii</i>	0.65	0.21	10	黒
<i>A. imprimens</i>	0.76	0.22	4	黒
<i>Aedes</i> sp.	0.78	0.22	10	黒
<i>C. bitaenior.</i>	0.66	0.23	10	褐
<i>U. bimaculata</i>	0.57	0.19	10	黒

各卵の形態

1. *Uranotaenia bimaculata*
2. *Culex bitaeniorhynchus*
3. *Aedes imprimens*
4. *A. hatorii*

9月11日に採集したものは403個であつた。尙お同年
8月上旬金沢市の最高平均気温は31.5°Cで9月上旬よ
りも約5°C高い。*U. bimaculata* は卵塊の成熟した
成虫を採集した。この属は卵塊を作るといわれているが
筆者のみた例では湿った濾紙及び水面上に散在しており
卵数は26個であつた。

B. 形態 各卵の形態は図及び表に示す通りである。

〔金沢大理学部生物〕

同一卵群より孵化した蚊幼虫の変異について

中田 五一

Nakata, G.: On the individual variation of
mosquito larvae derived from
a batch of eggs

従来の分類学的記載には、同種内に於ける個体変異を
統計学的或いは推計学的に取扱つた例が極めて少ない。
しかし一般に分類の専門家でない人々が、種々の必要上
種類を同定したい場合には、検索表や記載に出ている形
質より、どの程度まで外れても許容されるかと言う限界
が分からないので、往々同定不能に陥る場合がある。従つ
て、今後分類学に推計学を取入れて、変異の棄却限界を
或る程度明確に指摘して欲しいと思う。今回この問題に
関する予察的資料の一つとして、同一卵群より生育した
或る種の蚊の幼虫の変異を計測して見た。昨年10月上
旬、神戸市自宅の池より *Culex* 卵塊1個を採取し、これ
より孵化した幼虫全部を飼育して、11月1日までに第4
齢に達した幼虫164個体について、頭幅、呼吸管長、呼
吸管幅、呼吸管比、内中外前頭毛の分岐数、五対毛の中、
a, c毛の分岐数、側鱗数、呼吸管棘数、下唇歯数、触角
毛の位置等を計測し、それらの分布型、平均値、標準偏
差を求めた。又所謂呼吸管比と触角毛位置については、
夫々相関係数を計算し、且つそれを推計学的に検定し
た。使用した幼虫の種類については、今の所同定不能で
ある。山口、LaCasse 両氏、及び佐々、浅沼両氏のつ
くられた検索表並びに記載に従えば *Culex ryukyensis*
か *Culex pallidothorax* に近い様であるが、呼吸管の形
がかなり両種と異つて、両者の中間型とも云うべき状態
を示し、それ以外の形質については、これら両種との間
に特記すべき差異が認められない。測定の結果、上記各
形質の平均値は、夫々 1.137 mm, 1.278 mm, 0.286
mm, 4.49, 4.21, 3.53, 7.39, 5.54, 9.71, 40.92,
15.61, 27.97, 48.45 で標準偏差は夫々、± 0.074 mm,